



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail: daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

「ナルマダー河の子供たち」⑤

終盤に近づいたので、あの広島ヤクザぼいスワミーの話をもう少ししておこう。

わが輩は彼が大僧団の一員か、あるいはそこから離脱した人だと思っていた。彼のオレンジ色の僧衣が大僧団の僧と同じであったからである。また、彼の施設の祠堂は、全く大僧団と同じ尊格、同じように荘厳され、お祈りのスタイルも全く同じであった。

最初われらがインドール空港に着き、途中立ち寄ったのが大僧団の別院であった。学校が併設されている中規模の施設である。そこで昼食の施食を頂き昼寝をした。彼は別院のスワミーたちと親しく接していた。

故に、わが輩は彼が大僧団の一員だと思っていた。

(しかし、なにかが違う。匂いか?)

実は、彼は大僧団のメンバーではなかった。

(では、彼は一体なの者なの?)

彼は“一匹狼”的スワミーであった。

もともとスワミーは、大僧団に入団したかった。ところが、理由は分からないが何らかの事情でそれが叶わなかった。大僧団は、いわばエリート集団である。学歴・教養や年齢などの条件は厳しい。

(ヤクザぼいので面接で落ちたのか?)

ちなみにモディ首相も若いころ入団を希望したが、許可されなかったと言われている。

(首相も、若いころはヤクザぼかったのか?)

それでも首相はよく大僧団を訪れるらしい。

読者諸氏なら、出家僧と首相、どちらを選びますか。

(もちろん、首相だよ)

彼の施設から50メートルほど上流に大僧団の瞑想分院がある。品性ある三名ほどの僧が常駐し、インド中の大僧団の僧たちが巡礼と瞑想と保養のためにやって来る。そこは清潔で静寂な雰囲気になっている。風の流れが心地よい。絶壁に建てられた部屋からはナルマダー河が広く臨める。瞑想修行に適した素晴らしい環境である。

余談だが、州政府はこの神聖な島をリゾート地にしようと計画したことがある。サードゥー行者の庵や住民を排除し高級リゾート・ホテルを建て、観光客を呼び込もうとするプロジェクトである。修行者たちの大反対で霧散してしまった。

(全く、政治家役人はつまらないことを考えるものだ!)

スワミーの施設は子どもたちが乱舞し静寂な雰囲気とは言い難い。子どもたちはよく掃除をして清潔だが、日常の匂いがただよっている。それにスワミーの声はダミ声で大きい。

ところで、J夫人より意外な事実を聞いた。

「あの瞑想分院は、広島ヤクザばいスワミーが寄進したのよ」

彼が最初に設立した施設だと言うのである。それをポンと大僧団に寄進してしまった。

(太っ腹！)

わが輩には、それが理解できなかった。

(大僧団に対するコンプレックスの裏返しか、それとも献身か?)

それを寄進して、現在のところに小さな庵を建てた。それが発展し、大きさでは瞑想分院を越えてしまった。

この違いとは何であろうか。読者諸氏も考えてほしい。

わが輩は言う。「徳」である。分院の僧が瞑想で得たものは“瞑想徳”である。スワミーのそれは“遊戯徳”である。

インド神話では、遊戯を“リーラー”と言う。わが輩は結構このことばが好きである。この世界は幻影にすぎず、われわれはそこで遊んでいるにすぎない。このリーラーを操っているのは“神”である。神の思うままに、われわれは遊んでいる。遊ばされているのである。

ラサ・リーラ（美しき遊び）という、クリシュナ神（美男子）とラーダーたち（牛飼いの女）の物語である。女たちそれぞれは、彼と二人だけで踊っているかのように思っているが、それは幻影である。彼が女たちに幻影を見せ、二人だけだと思わせているのである。

子どもたちそれぞれもスワミーと二人だけで遊んでいると思っているのであろうか。とにもかくにも、スワミーは常に子どもたちと遊んでいる。そのことによって「徳」がついてくる。なぜなら、それはラサ・リーラだからである。だから、お布施する信奉者もついてくる。

もちろん、“瞑想徳”はレベルが高い。だが、われらには険しい坂道である。この坂道は上がれない。われらはただただ坂の上を仰ぎ見るだけの“蛙”である。

悠然として山を見る蛙かな 一茶

広島ヤクザばいスワミーは“親蛙”だと、わが輩は思っている。

さあ、親蛙、子蛙ともお別れのときがやって来た。

(楽しかった！)

スワミーは空港まで見送ってくれた。もう一度、別れの挨拶をするために振り返ったとき、わが輩は見た。

そこには、広島ヤクザばいスワミーではなく、悠然とわれらを見送るスワミーがいた。